

神女広報

CROSSROADS

vol.18
2014 Summer

神戸女子大学
神戸女子大学大学院
神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター



特集

ライブラリー・commons誕生

- 6 教育研究活動
- 14 学園トピックス
- 16 大学連携
- 16 地域連携
- 18 インフォメーション

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌

学校法人行吉学園

ライブラリー・commons誕生

Library Commons



学生の自主的な学習を支援するための施設が須磨キャンパス図書館に完成しました

神戸女子大学は、建学の精神に基づき「自立心に富み、対話力と創造性にすぐれ、人類社会の発展に貢献する女性を育成する」という教育目標を掲げています。本学では、この目標を具体的に実現するための取り組みとして、平成25年度文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の「建学の精神を生かした大学教育の質向上」による補助金を得て、学生が積極的に学習できる施設「ライブラリー・commons」を須磨キャンパス図書館

1階に整備し、平成26年4月から利用できるようになりました。

「ライブラリー・commons」は、気軽に教員に学習相談や個別指導を受けることができ、個人が静かに学習することももちろん、一方では会話をしながらグループ学習にも利用できるスペースとして毎日、多くの学生が利用しています。この施設は次の3つのコーナーから構成されており、学生が積極的に学ぶ姿勢を支援しています。

① 学習支援センター ② 共用自習コーナー ③ ランゲージ・カフェ

吹き抜けのカーテンウォールにより自然の光がたっぷりと降りそぐ室内は、明るく外の景色が自然に目に入る憩いの場所としても最適です。

「ライブラリー・commons」の広々とした3つのコーナーには、使用目的・人数によって組み合わせが自由にできる机が多く配置され、女子大学らしい優しい雰囲気の中で落ち着いて学習できるように配慮しました。

また、無線LANが整備され、パソコンやタブレット機器も接続でき、インタラクティブホワイトボード(電子黒板)などの最新の学習設備も導入しています。



○ライブラリー・commons取り組み責任者のメッセージ

神戸女子大学 副学長(家政学部教授) 平田 耕造

神戸女子大学の魅力の一つとして学生と教員の距離が近く、学業以外にも生活や将来のことなど、なんでも気軽に話することができるという「風土」があると思います。その「風土」を具体的に実現する場所として誕生したのがライブラリー・commonsです。

学生同士の学びあいの場であるとともに、学生の勉学に教員がより積極的に関わり、教員と気軽に話し合える環境が整ったことに、大きな喜びを感じています。

大学教育では、1単位の認定にあたり15時間の講義に対して同じ時間の予習および復習が必要とされています。しかし、実際にはこれだけの授業以外の学習時間を確保することは、難しいのではないかと思います。そこで、この施設が学生の皆さんのキャンパス内の学習できる場として大いに活用されることを期待しています。また、ライブラリー・commonsはその名のとおりに、図書館内に誕生しました。専門書がすぐ近くに配架されている環境は自習するのにも最適です。図書館本来のもつ知的な空間にライブラリー・commonsのくつろいだ雰囲気の大いに役に立ててください。

ライブラリー・commonsの明るく開放的な空間では、教員に学習相談をしている学生、一人静かに本を読む学生、講義内容について議論しているグループ、外国人の教員と会話している学生、留学生に日本のことを説明し、本国の大学の事情を尋ねている学生など様々な風景を目にすることができます。ライブラリー・commonsで繰り広げられる場面は、それを通りすがりに見る学生にとってもいろいろな活動に対するモチベーションを高める効果があるはずで、教員と学生、あるいは学生同士で思わぬ出会いや輪が広がっていくことでしょう。

学生の皆さんには、この場所を大いに利用して、知識を確実に身につけ、教養を高め、社会に出たときは、積極的に提案し行動できる社会人になってほしいと思います。本学の建学の精神である社会に貢献できる有為な女性として活躍できるように、ライブラリー・commonsが能力を十分に発揮するための基礎力を培う場所となることを願っています。



オープニング・セレモニー

平成26年3月28日(金)に、行吉 誠之理事長、神戸女子大学 中島 實学長、部局長、学習支援センター準備室委員、改装に関わった関係者の方々も出席してオープニング・セレモニーが行われました。

行吉理事長、平田副学長のオープニングの挨拶に続き、改装工事を行ったコーナン建設株式会社、備品を整えた伊藤喜商事株式会社の担当者の方から各コーナーの設備についての説明がありました。



オープニング・セレモニーと内覧会の様子

1

学習支援センター

学生の学ぶ力と意欲を育てる手助けを積極的に行うことが目的のコーナーです。

基礎科目(数学・化学・生物・物理)の理解不足を補いたい、学力のアップを目指したいと考えている学生が、気軽に教員に相談し助言が受けられます。教員の待機ブースがあり、現在は2名の教員が日替わりで担当し、個別相談に応じています。

「数学」・・・尾崎 守(火・金)

「理科」(化学・生物・物理)・・・安田 邦夫(月・木)



学習する学生たち。奥ではミニ講義が行われている

個別相談は予約制になっており、学生は授業のない空いた時間を利用して、担当の教員から丁寧な指導を受けています。就職試験対策、公務員試験対策、教員採用試験対策、授業の予習・復習などの目的で個別相談に来ていますが、「楽しく、そしてよくわかる」「わからなくなって解答をあきらめた問題に、再度チャレンジできた」といった感想が聞かれます。

パソコン画面を投映したボード上で、書き込みやデータ保存が

できるインタラクティブホワイトボードを使用し、教員と学生が活発に意見交換が行えるようになっていました。またグループ学習においても、学生同士がデータを共有したり課題について考えたりすることが容易になり、学習理解や教育効果を高めています。基礎学力の向上を目指すために「基礎科目ミニ講座」も開催し、予約制で少人数対象の学習支援も行っています。今後、学生からの要望も取り入れて、科目内容を増やしていく予定です。



数学の個別相談を受ける学生と尾崎守講師



物理の個別相談を受ける学生と安田邦夫講師

平成26年度前期に開催された「基礎科目ミニ講座」日程表

数学:尾崎 守講師

理科(化学・物理):安田 邦夫講師

理科(生物):安田 邦夫講師

	講座内容	開催日時
1	割合と比	5月30日(金) 13:00~14:00
2	面積と体積	6月6日(金) 14:40~15:40
3	順列と組み合わせ	6月10日(火) 10:40~11:40
4	確率	6月27日(金) 10:40~11:40
5	数列	7月8日(火) 13:00~14:00

	講座内容	開催日時
1	力と運動	5月22日(木) 10:40~11:40
2	電気のはたらき	6月2日(月) 13:00~14:00
3	天体の運動	6月19日(木) 13:00~14:00
4	物質の種類	6月23日(月) 10:40~11:40
5	化学反応	7月3日(木) 14:40~15:40

	講座内容	開催日時
1	細胞とは何か? -しくみとはたらき-	6月5日(木) 13:00~14:30
2	免疫のシステム	6月12日(木) 13:00~14:30
3	臓器とその機能	6月26日(木) 13:00~14:30

※理数系の科目は、短期間では実力がつきにくいので、長期にわたって継続的に学習できるよう、後期も引き続き講座を開催します。

2

共用自習コーナー



一人で勉強が落ち着いてできる窓辺の席

組み合わせが自由な扇形の机

共用自習コーナーも目的や人数に応じて机・椅子の組み合わせが自由にできるようになっています。グループで大型ポスターや発表資料の作成などの共同作業にも活用しています。

このコーナーには、今後、自習する学生の利用頻度が高い書籍などを取り揃える計画をしています。書架に囲まれたこのコーナーは落ち着いて勉強したい学生に好評です。

3

ランゲージ・カフェ

グローバル化に対応した学生を育成する場として期待されています。

外国人の教員によるミニ講義が行われたり、留学を終えた学生たちが、留学中に学んだことを確かめ合い、今後の学習に生かすための場になっています。会話が弾むことを考えて円形にセットすることが可能な机が配置され、留学を検討している学生が留学体験を気軽に尋ねられるなど、海外に関心の高い学生が交流の場として活用しています。

留学に関する資料や書籍が配架され、学部、学科を越えて、「留学」「国際交流」をキーワードに新しい友人や仲間が作られる場にもなっています。また、外国人教員の待機ブースもあり、外国語で会話できる機会も設けられています。

このコーナーはライブラリー・コモンスでカフェ気分が味わえるように丸テーブルにゆったりした椅子が配置され、学生がくつろげる癒しの場にもなっています。



トーマス・ガリックソン講師によるミニ講義の様子



先輩と後輩で情報交換



飲み物を側にゆったり利用する学生たち

国際交流推進事務室も移転

海外研修・留学を支援する「国際交流推進事務室」もライブラリー・コモンスの開設にあたり移転しました。

国際交流推進事務室では、教育・研究における国際交流の推進を図るとともに、学生の海外派遣及び留学生の受け入れに関する事務手続きなどを行っています。海外留学に興味のある学生は、まずこの場所を訪ねて全般的な相談をしたり、詳細な説明を受けたりします。

事務室がカウンターで区切られた場所にあり、気軽に相談ができるため、毎日多くの学生でにぎわっています。



海外留学の相談に来た学生



古典芸能研究センターからの お知らせ



古典芸能研究センターリニューアル



資料室2

新生古典芸能研究センターが目指すもの

神戸女子大学古典芸能研究センターでは、研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」が、平成25年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、その一環として施設をリニューアルしました。資料室と閲覧スペースを広げ、落ち着いた見学できる展示室も新たに設けました。

本学が位置する兵庫（摂津・播磨）は民俗芸能の宝庫であり、様々な芸能の源を考える上で重要な地です。こうした立地条件に加え、本学では日本有数の古典芸能関係の貴重なコレクションを所蔵しています。

この研究プロジェクトでは、本学がもつこれらの資産を生かした研究拠点づくりを目指し、5ヶ年の研究計画を実施します。研究会や講演会・シンポジウムの開催、刊行物の発行など、詳しい情報は、古典芸能研究センターホームページで随時公開します。そのための重要な足掛かりとして、新しい施設を大いに活用していきたいと考えています。



展示室



資料室1

古典芸能研究センターリニューアル記念講演

古典芸能研究センターのリニューアルを記念して、6月7日(土)、教育センターで、「古典芸能研究の未来」と題する講演会を開催しました。センターが総合的研究を目指す中世芸能、近世芸能、民俗芸能の三つの視点から、これまでの蓄積をどのように研究の未来につなげていくことができるか、舞楽の実演、記念講演、展示見学を通じて参加者と共に考えました。

神戸女子大学古典芸能研究センターリニューアル記念講演

「古典芸能研究の未来」

日時：平成26年6月7日(土) 13:00～17:00

場所：神戸女子大学教育センター5F特別講義室

○舞楽「蘭陵王」実演

北野天満神社宮司 佐藤 典久

○講演会「古典芸能研究の未来」

- ・中世芸能の視点から
大谷 節子(古典芸能研究センター兼任研究員・本学教授)
- ・近世芸能の視点から
阪口 弘之(古典芸能研究センター特別客員研究員・本学名誉教授)
- ・民俗芸能の視点から
川森 博司(古典芸能研究センター長・本学教授)

○展示見学<非常勤研究員による展示解説>

リニューアルオープン記念展示

場所：古典芸能研究センター2F展示室

会期：平成26年6月7日(土)～8月8日(金)

時間：10:00～17:00(木・土・日曜・祭日休室)



川森博司センター長の講演の様子



展示見学の様子

グランフロント大阪ナレッジキャピタル「ACTIVE Lab.」

「はじまりの芸能—古典芸能研究の神戸女子大学」として出展・展示

平成26年5月22日(木)から6月10日(火)の期間、大阪市北区のグランフロント大阪ナレッジキャピタル「ACTIVE Lab.」で開催された「『大学都市KOBE!発信』プロジェクト～好奇心を創り出す都市と大学～」に、古典芸能研究センターが「はじまりの芸能—古典芸能研究の神戸女子大学」というテーマで出展しました。

当センターの長年にわたる研究の成果と資料をもとに、「沖縄祭祀資料データベース」から沖縄の祭りをダイジェストにまとめた約10分の動画を常時放映し、「喜多文庫民俗芸能資料データベース」から兵庫県の名代表的な民俗芸能の写真パネル(翁舞、田楽、鬼の芸能)を展示しました。

土曜日・日曜日の午後には、当センターの研究員が交替で、能・狂言・文楽・歌舞伎といった舞台上で上演される伝統芸能の根源「はじまりの芸能」を探るうえで、沖縄の祭祀芸能や民俗芸能が重要であることを解説し、来場の皆様は熱心に耳を傾けました。



展示の様子

平成26年度 科学研究費助成事業採択状況

平成26年度の科学研究費助成事業について、本学園の採択件数は大学32件(継続23件、新規9件)、短期大学1件(継続1件)でした。科学研究費助成事業は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までの「学術研究」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。独創的・先駆的な研究であるかの審査を経て採択された研究に対して助成が行われます。神戸女子大学の採択金額の合計は42,770千円であり、増加の一途を辿っています。

平成26年6月現在

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究(B)	文学部・教授 大谷 節子	能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究
基盤研究(C)	文学部・教授 木下 由紀子	世紀転換期における形而上的文化交流の形—岡倉天心とヴァーヂニア・ウルフの芸術観
基盤研究(C)	文学部・教授 大橋 喜美子	幼保一体化に向けた保育カリキュラム・モデルの構築
基盤研究(C)	家政学部・教授 山根 千弘	ナノ食品—木質バルブから構造制御されて得た機能性食品材料—
基盤研究(C)	家政学部・准教授 木村 万里子	雑豆由来オリゴ糖鎖の機能性開発と食品への応用
基盤研究(C)	家政学部・准教授 大森 正子	脳機能維持・向上に関わる手芸活動の重要性に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・准教授 高野倉 睦子	簡易型高齢女性サーマルマネキンによる着装時の人体—被服間の空気層の計測
基盤研究(C)	家政学部・教授 後藤 昌弘	ジャガイモの品種による物理化学的特性と食味におよぼす要因に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 佐藤 勝昌	保育所における食物アレルギー児に対する給食の栄養評価に関する研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 栗原 伸公	カプサイシン、ジンゲロール摂取による高血圧予防のメカニズム
基盤研究(C)	文学部・教授 森 尚也	ベケット作品/草稿におけるテキストと図:ライブニッツ的組み合わせ術と存在論の研究
基盤研究(C)	文学部・教授 三保 忠夫	宮内庁書陵部所蔵鷹書についての日本語学的研究
基盤研究(C)	文学部・准教授 吉村(森本) 真美	19世紀イギリスの植民地間ヒト移動と帝国ネットワークの形成
基盤研究(C)	文学部・准教授 野口 和美	米国パブリック・ディプロマシーにおけるフィランソロジーと政府の連携に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 津田 理恵子	懐かしさを活用した生きがいの維持・向上-元気高齢者と虚弱高齢者への支援-
基盤研究(C)	健康福祉学部・准教授 佐藤 賢子	食事管理を必要とする慢性疾患患児に対する保育所・学校の給食整備に関する研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 小笠原 慶彰	大大阪期の企業家による社会事業への貢献に学ぶ企業の社会的責任の研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 田中 紀子	季節変化および食生活・生活習慣に起因するエネルギー代謝変動の定量化
基盤研究(C)	家政学部・教授 狩野 百合子	エキストラバージンオリーブ油の食習慣に基づいた複合的栄養機能の解析
基盤研究(C)	文学部・教授 水瀨 朋枝	全集未収資料集の作成による藤村研究の再構築
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 植戸 貴子	親による障害者殺害の予防策に関する実証的研究:知的障害者の親の子離れ支援
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 吉川 豊	糖尿病克服を目指した有機・無機ナノ複合体である高活性金属錯体の探索研究
基盤研究(C)	健康福祉学部・教授 藤田 冬子	介護者のためのエンハンスメント・プログラムの評価
基盤研究(C)	文学部・教授 狩野 恭	8-10世紀インドにおける主宰神論争史研究
基盤研究(C)	文学部・教授 山内 晋次	火薬原料の国際流通からみた前近代の日本とユーラシア
基盤研究(C)	文学部・教授 松下 孝昭	日露戦後における軍隊の立地と遊廓をめぐる都市地域社会
基盤研究(C)	文学部・教授 今井 修平	播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究
基盤研究(C)	家政学部・教授 置村 康彦	分岐鎖アミノ酸の筋萎縮抑制作用の基盤を形成する成長ホルモンの役割
基盤研究(C)	文学部・助教 中村 平	台湾先住民の「民族」自治:中国と周辺地域における脱植民化
基盤研究(C)	文学部・非常勤講師 李 春子	東アジアの「水」を巡る「伝統の森」の文化の資料化
基盤研究(C)	文学部・准教授 久野 和子	「場としての図書館」の統合的研究:日本の新しい21世紀型図書館パラダイムの提唱
基盤研究(C)	幼児教育学科・准教授 高山 由佳子	日本における児童虐待ケースに対する区分対応システムの開発的研究
挑戦的萌芽研究	家政学部・教授 上野 勝代	精神障がい者のための先進的居住システムに関する研究

※ゴシック文字は今年度新規採択(9件)

研究紹介

神戸女子大学文学部 史学科 今井 修平 教授

神戸女子大学文学部 史学科の今井 修平教授は日本近世史が専門です。「都市史」「地域史」「商品流通史」をキーワードに江戸時代の研究を続けています。

「大阪歴史学会」の代表委員(平成24年6月から2年間)も勤め、平成26年4月26日(土)に、同学会主催の現地見学検討会「在郷町伊丹の歴史と発展―国指定文化財旧岡田家酒蔵築340周年記念―」ではパネリストとして登壇し「在郷町伊丹研究の成果と課題」と題して講演しました。

科学研究費助成事業による研究としては、平成22～24年の基盤研究(C)研究課題名「畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究―播州福本藩領鶴野金兵衛家の活動を中心に―」に続き、今年度も研究課題名「播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究」が基盤研究(C)の分野で採択となりました。



科学研究費助成事業による今井教授の研究概要

前回採択の「畿内近国小藩領における大庄屋機能の研究―播州福本藩領鶴野金兵衛家の活動を中心に―」では、鶴野金兵衛家の文書、領域内の村方文書、寺院文書や鳥取や岡山に残されている藩主池田家の関係史料を収集・分析して、小規模な封建領主支配を支えた大庄屋機能と役割を解明しました。小藩領の家臣団編成や年貢取収の特性、領地を超えた経済活動、さらに幕府の広域行政との関わり的一端が明らかになりました。

今年度採択の「播磨国小藩領における地域社会構造の歴史的研究」では、研究対象を播磨全域に広げ、小藩領を流域社会と領域社会という二つの概念で捉えなおし、播磨国の特性解明を試みます。

今井教授の学外の研究活動

NHKの大河ドラマ「軍師官兵衛」に関連して伊丹市が取り組んでいる「いたみ官兵衛プロジェクト」に協力して、昨年11月に京都市の相国寺光源院に所蔵されている古文書を調査し、秀吉の軍師であった黒田官兵衛が、かつて自分を幽閉した荒木村重宛に送った後年の書状について「文面から遺恨は感じられず、幽閉後の二人の仲が伺える」と評価したことが、マスコミ各社から報道されました。

続いて1月25日(土)には伊丹市立図書館「ことば蔵」において「豊臣政権成立期の官兵衛と村重」という演題で講演しました。

神戸女子大学 平成26年3月卒業生 国家試験の結果について

第28回 管理栄養士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	171	164	95.9%
管理栄養士養成課程(新卒)	8,614	7,857	91.2%
全国合計	21,302	10,411	48.9%
第16回 精神保健福祉士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	12	10	83.3%
保健福祉系大学等(新卒)	2,018	1,330	65.9%
全国合計	7,119	4,149	58.3%
第26回 社会福祉士国家試験	受験者数	合格者数	合格率
神戸女子大学	46	26	56.5%
福祉系大学等(新卒)	10,226	4,268	41.7%
全国合計	45,578	12,540	27.5%

大学院情報 学位取得者及び学位論文(概要)

平成25年度 博士学位取得者 博士論文概要

平成25年度は、神戸女子大学大学院家政学研究科 食物栄養学専攻に以下の4名から学位論文が提出され、博士(食物栄養学)の学位が全員に授与されました。

平成25年9月23日 岩田 恵美子氏(論文博士)

平成26年3月17日 佐藤 誓子氏、海崎 彩氏、大瀬良 知子氏(課程博士)



<論文博士>

岩田 恵美子 (指導教員:堀田 久子教授)

論文題目:「野菜・果物未利用部位から抽出した食物繊維の新規機能に関する研究」

温州ミカンのアルベド(中果皮)や、ヤマイモやサトイモの皮、エンドウ、ソラマメのさやなどから総食物繊維(不溶性食物繊維と水溶性食物繊維の混合物)を抽出した。そして、抽出した総食物繊維をそれぞれ培地に添加してビフィズス菌の培養を行い、増殖率が最も高かった温州ミカンのアルベド由来総食物繊維(アルベドTDF)を飼料に混合してラットに摂取させた。アルベドTDFを含まない飼料を食べたラットと比べた結果、アルベドTDFを摂取したラットでは盲腸内容物中のビフィズス菌の検出率が大幅に増加し、血清中に含まれる脂質の中でトリグリセリド(TG)濃度だけが有意に低下した。血清中のTG濃度だけに

低下効果がみられた原因を明らかにするため、温州ミカンのアルベドから水溶性食物繊維(アルベドSDF)を抽出し、腭リパーゼの酵素反応に添加し活性を調べた。その結果、アルベドSDFの添加量が増えるほど腭リパーゼの活性が低下した。さらにラットの糞便中の総脂質濃度がアルベドTDF摂取群で有意に増加していたため、摂取した脂質が消化吸収されずに排泄され、血清中のTGだけが有意に低下したと考えられた。

本研究により温州みかんのアルベドに含まれる食物繊維には、ビフィズス菌増殖促進効果と血清中のTG濃度を低下させる2つの生理活性があることが明らかになった。



<課程博士>

佐藤 誓子 (指導教員:梶原 苗美教授)

論文題目:「保育所における食事・栄養管理を必要とする児童への給食対応と給食の栄養評価に関する研究」

保育所における食事・栄養管理を必要とする児童への給食対応を明らかにすること、及び児童が摂取している給食の栄養量を評価することを目的とした。

食物アレルギーに関連しない体調不良・病児及び食物アレルギー児への給食対応に関する検討では、神戸市内の公立及び民間保育所に対して質問票調査を行った。食物アレルギー児が摂取している給食の栄養評価に関する検討では、神戸市内の民間保育所から1ヶ月分の非食物アレルギー児のための基本献立表及び食物アレルギー児のためのアレルギー対応献立表を直接入手し、これらの献立表から1食あたりの給与栄養量を算定した。

食事・栄養管理を必要とする児童への給食

対応の検討によって、保護者からの具体的な要望や給食提供側の配慮、工夫、代替食の例を明らかにした。また、食事・栄養管理を必要とする児童への給食の栄養評価の検討によって、食物アレルギー児のうち、牛乳・乳製品アレルギー児においてのみ、給与栄養量が不足していることを明らかにした。従って、牛乳・乳製品アレルギー児に対する食事提供の際には、成長の遅延などを招来させる可能性もあることから、更なる栄養学的な配慮が必要である。

本研究で得られた知見は、今後の保育所における食事・栄養管理を必要とする児童の食事計画の立案の際に有用な情報となり得るものとする。



<課程博士>

海崎 彩 (指導教員:田中 紀子教授)

論文題目:「夏季暑熱環境下における食物摂取の変化が若年運動選手の体格に及ぼす影響とエネルギー代謝との関連」

気候と食物摂取の関係は古くから研究され、気温が高いと食物摂取は少なく、低いと多くなることが知られている。夏季暑熱環境下で運動選手に食物摂取の減少が起こると、筋量が減少し、体力や運動パフォーマンスに影響を及ぼす可能性がある。高校野球選手42人を対象に夏季の食物摂取の減少について調査し、体格に及ぼす影響を調べて、安静時エネルギー代謝量(REE: resting energy expenditure)や、甲状腺ホルモンとの関連を調べた。

夏季のエネルギー(E)摂取の減少は約70%の選手で起こった。E摂取が減少した選手は、エネルギー

バランスが大きく負に傾き(約-700 kcal)、体重・上腕周囲長が有意に減少し、体格に悪影響を及ぼした。食物摂取の減少をREEから調べたところ、夏季の食物摂取の減少は運動量ではなく、むしろREEの低下と関連することが考えられた。一方、REEと甲状腺ホルモンとの関連は、夏季にはなく、冬季には関連があった。

本研究より、夏季暑熱環境下において運動選手にE摂取の減少が起こると、体格に影響を及ぼすことがわかった。夏季に食物摂取の減少を起こさないような栄養教育を行うことが重要であると考えられた。



<課程博士>

大瀬良 知子 (指導教員:栗原 伸公教授)

論文題目:「Relationship of mothers' food preferences and attitudes with children's preferences.」

本研究は、多重ロジスティック回帰分析を用いて、母親の食嗜好と生活習慣・食習慣が幼児の食嗜好に及ぼす影響について検討した。

人々が将来健康に過ごすためにはバランスよく食事を摂取する必要があり、バランスよく食事を摂取するためには、食嗜好が重要である。幼児の食嗜好には、生得的に持つものと後天的に獲得するものがあるが、どちらが強く幼児の食嗜好に影響するかは明らかになっていなかった。

調査の結果、幼児期に偏った食嗜好を持って

いた母親の子どもは、同じ時期に偏った食嗜好を持つ割合が高い可能性が示された。ただし、幼児の食嗜好には母親や幼児の生活習慣や食習慣も強い影響を及ぼしていることが示されたことから、この食嗜好は後天的に補正していくことが可能であるものと考えられた。

本研究により幼児の食嗜好改善のための示唆が得られたものと考えられるが、引き続き、将来人々が健康に過ごすために幼児期に正しい食習慣を身につける事の重要性を明らかにしていきたいと考えている。

教員の著作紹介

神戸女子大学 文学部 史学科
松下 孝昭教授(日本近現代史)

軍隊を誘致せよ
—陸海軍と都市形成(歴史文化ライブラリー)
2013年11月刊/274ページ/吉川弘文館



「誘致」はその時代の夢を映し出します。日清・日露戦争後、全国で軍隊誘致運動が起こりました。「軍隊の誘致」という意外な面から、住民が軍隊と共存しつつ都市形成と振興をめざした姿に迫っています。

神戸女子大学 文学部 史学科
小林 善文教授(東洋史)

中国の環境政策(南水北調)
—水危機を克服できるのか
2014年1月刊/324ページ/昭和堂



水資源の偏在する21世紀初頭の中国における、大規模な自然改造計画のもつ問題点を、移民問題や生態環境回復政策の可否、自然保護の取組み、河川管理のあり方などの多様な側面から考察しています。



国際交流

教育研究活動

交流年表

(姉妹提携等)

1983年	ハワイ大学(米国)	2007年	チェンドラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライブルク大学(独国)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ボモナ校(米国)
		2012年	アイルランガ大学(インドネシア)

ケント大学長期留学生の報告



ケント大学英語研修(3週間)の引率で訪れた
ジェームス・クロッカー講師と再会した鶴田麻衣さん

れて寝る時間を削るほど忙しい生活が続きました。

9月からはケント大学の学部の授業を履修し、本格的な講義を受けました。前期は文学を受講し、英語での読み書きをさらに磨き、他に、日本でも受講していた中国語の授業も受けました。後期は、言語学で文法を学び、引き続き中国語も受講しました。

1年間の留学を終えて鶴田さんは語学力が飛躍的に向上したことはもちろんですが、イギリスの伝統を尊び古いものを大切にす文化に共感を覚えるようになりました。そして何よりも、初めて実家を離れ寮生活をし、生活のすべてを自分で行った結果、精神的なたくましさや冷静に落ち着いて対処できる力が身につきました。

クラブ活動では陸上部に所属し、練習での部員との交流を楽しみました。今後は会話力をさらに身につけ、英語を生かせる仕事に就きたいと思っています。

イギリスのケント大学に留学していた神戸女子大学文学部 英語英米文学科の4年生鶴田 麻衣さんが、1年間の留学を終えて2014年4月に帰国しました。

鶴田さんが留学したのは世界各国から留学生が集まるJunior Year Abroad (以下JYA) English PLUSというコースです。鶴田さんは約300人の留学生と留学生生活をスタートしました。

JYAの学生は、まず、ケント大学の授業についていくための英語力を身につける集中コースで学びます。最初の6週間は文法をマスターすることから始まり、ディスカッション、ライティングの授業を受講しました。次はリーディングの課題を中心に、英語の聞く力と書く力の向上に専念しました。毎日多くの課題が出さ



ライブラリー・commonsで
ケント大学の資料を前に体験を語る鶴田さん

ローターアクトクラブ フィリピン台風災害支援 バンカーを寄付

2013年11月、フィリピン中部を直撃した超大型の台風は、規模・被害とも過去最大級のものでした。被災者の生活再建への道のりは依然として厳しい状況が続いています。

神戸女子大学ではローターアクトクラブ(注)の学生が、少しでも現地の人々の役に立ちたいという思いから、観光・漁業に必要なバンカーという船を送るために募金活動を学内・学外で行いました。

4月には、バンカーを作るための目標金額(17万6千円)が

集まりました。今から19年前に阪神・淡路大震災で、世界中の人々から暖かいお見舞いの言葉や支援をいただいた神戸の地から、復興の願いをこめて寄贈したバンカーは、「神戸女子大学号」と名前がつけられ現地で活躍しています。

(注)ローターアクトクラブはアメリカ発祥のロータリークラブを母体とした、国際交流や地域貢献を通して社会のリーダーとなるべく人材を育成することを目的としたクラブです。第2680地区の神戸須磨ロータリークラブをスポンサーとして発足しました。神戸女子大学ローターアクトクラブは2006年に発足した後、2012年にクラブに昇格し活動を広げています。



寄贈したバンカー「神戸女子大学号」



クラブの例会での募金活動の報告



募金活動をしている学生

国土交通省 公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会での活動

近年、公共交通機関の旅客施設などにおいてエレベーターなどのバリアフリー整備が進んでいます。ベビーカーを広げたままでの移動がしやすくなったことなどから、鉄道やバスでベビーカーを利用する人は大幅に増加し、それに伴いベビーカー利用にまつわる事故やトラブルも発生しています。

国土交通省は平成25年6月、ベビーカーを使用しやすい環境づくりに向けて必要な事項を協議するために、学識経験者、子育て等関連団体、交通事業者、行政機関などの実務者からなる委員で構成された「公共交通機関等におけるベビーカー利用に関する協議会」を設置しました。

この協議会に神戸女子大学家政学部の西本 由紀子助手が学識経験者として選ばれ、国土交通省の政策に協力しました。

西本助手は公共交通機関におけるベビーカーの利用実態や利用者を取り巻く環境、ベビーカーを利用しない周囲の人々の意識などについて調査・研究を行っています。施設・設備などの物理的なバリア(壁)や、周囲の人々の意識の差から生じる心理的なバリア(壁)の解消を目指し、ベビーカー利用者に正しい使用を呼びかけることの必要性や、様々な世代や立場の人々が快適で安全に公共交通機関を利用するための方策を提案してきました。

国土交通省は、協議会の検討報告を受け平成26年3月26日(水)に、ベビーカーの安全な使用とベビーカー利用への理解・配慮を求めるとの「ベビーカー利用にあたってのお願い」及び「ベビーカーマーク」を公表しました。

西本助手は、「相互理解が深まり、ベビーカーが安全に利用できる環境が整備されることは、子育て支援にもつながります。今後はそれらがどのように普及啓発されていくのか、社会に及ぼす影響や効果を調査し研究を進めたい」と語っています。



西本由紀子助手と「ベビーカー利用にあたってのお願い」のポスターと「ベビーカーマーク」

理科実験教室へ化石・岩石標本が寄贈される

平成26年3月に、神戸女子大学の名誉教授後藤 博彌先生と波田 重熙先生から、貴重な化石・岩石標本を寄贈していただきました。

お二人の先生方は、専門が地球科学で、在職中に教育学科の「理科概説」「理科教育法」などの小学校教諭の資格に必要な科目を担当されました。地球環境の変遷と変動帯の形成・発展に関する研究の権威でもあります。

神戸女子大学は「私立大学学術研究高度化推進事業」の一つであるオープンリサーチセンターの選定を平成13年に受け、研究成果を広く公開してきました。お二人の名誉教

授と現在の理科教育関連科目の担当である村田 恵子助教は、「東南アジアの地球環境の変遷」を分担し、現地調査も実施されました。今回、同センターに当時展示をされていたものに、教員採用試験に出題されることの多い示準(標準)化石を加えて、化石を中心に約110点の化石・岩石標本を寄贈していただきました。見学者が理解しやすいように陳列され、説明のプレートも波田先生が作成されました。

お二人の先生方は、「教科書に載っていても実物を見る機会の少ない貴重な化石・岩石の標本なので、教育学科の学生はもとより他学科の学生にもぜひ見て欲しい」と語っておられます。



寄贈された化石・岩石標本の展示の様子



展示物:マンモス象の臼歯化石(新生代の示準化石)



展示物:世界最古(38億年前)の燧岩(れきがん)(先カンブリア時代)

神戸女子短期大学の学生 栄養士実力認定試験の成績優秀者として表彰を受ける

平成25年12月8日(日)に行われた一般社団法人全国栄養士養成施設協会認定の栄養士実力認定試験において、神戸女子短期大学食物栄養学科2年生(当時)の上野 知世さんが全国9,388人の受験者中13位、短期大学養成課程4,342人中1位と健闘し成績優秀者として表彰されました。

同協会は、栄養士の知識や技能を担保するための実力認定試験が必要であると考え、栄養士の資質の均一化と質の向上を目的として平成16年から協会主催の栄養士実力認定試験を実施しています。

昨年に引き続き同協会の表彰を受け、短期大学養成課程としても、連続1位を獲得しました。

上野さんは社会人として神戸女子短期大学に入学しました。専業主婦であった上野さんは、バランスの良い食事をとることが健康な生活の源であるといった漠然とした知識はありましたが、離乳食を作るようになって、理論的に栄養

について学びたいと思うようになりました。そして、食育活動を積極的に行っている本学の食物栄養学科のことを知り、知識を得るだけでなく栄養士の資格も取りたいと考えました。

子育てをしながら2年間の学生生活は、多忙ではありましたが、以前大学で学んだ分野とは全く異なる専門科目の講義は新鮮で、実習の時間は実生活ですぐ役に立つ知識と技能が身につく、思い切って再び学生になったことに満足する毎日でした。家庭では十分な学習時間が取れないので、授業時間に集中して講義内容を全て理解する意気込みをもって授業に臨みました。昼休みや空き時間に復習をして、学業と主婦業を両立させました。

4月からは、神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程に編入学して管理栄養士になることを目標に、さらに勉学に励んでいます。将来は、管理栄養士として病院に勤務して人々の役に立ちたいと希望しています。



卒業記念パーティ会場で学科主任の田中智子教授(右)と担任の今本美幸准教授と記念撮影



須磨キャンパスのネットワークパソコンコーナーで学習する上野知世さん



総合生活学科 新カリキュラムによる新たな科目紹介

神戸女子短期大学総合生活学科では、平成25年度のカリキュラム改訂により、学生は10の多彩な分野から自由に科目を選択し、自分の興味のある分野で専門的な知識と高い技術が身につけられるようになりました。中でも「心理」の分野は、社会生活を送るうえで様々な行動につながる、総合生活学科ならではの実践的な12科目が開講され学生にも好評です。

今年度から「動物心理学」「ビューティ心理学」など6科目が新しく開講され、前期の「動物心理学」(他5科目は後期開講)は1年生40名が受講しています。身近にいる動物を観察し、言葉をもたない動物たちの行動や形態を学



イルカのトレーニング、飼育とエンリッチメント(注)についての講義の様子
講師:神戸市立須磨海浜水族園 飼育展示部 海獣飼育課 古田 圭介課長

び動物たちの価値観を理解する能力を養い、ともに生きる仲間として捉えることができるようになることが目的です。

15回の授業の前半を神戸市立須磨海浜水族園のスタッフの方々がおムニバスで担当し、後半を動物病院の獣医師の先生方が主にイヌ・ネコについて講義されます。

人と動物の関わり合いについての理解を深め、地球上に生きる多くの動物たちの生存権を考えることも授業の大きなねらいです。

(注)動物福祉の立場から、飼育動物の幸福な暮らしを実現するための具体的な方策。飼育環境に工夫を加え、動物の生活を豊かで充実したものにするという試み。

神戸女子短期大学 学科特別演習(ゼミ)紹介

神戸女子短期大学幼児教育学科の長谷川 美和准教授のゼミは、子どもたちの楽しい造形表現活動のための支援について、研究と実践に取り組んでいます。

ポートアイランドキャンパスは、神戸市の海上の人工島であるにもかかわらず、街路樹が多く、緑豊かな環境に囲まれています。そして本学のキャンパスは季節の花で、常時彩られています。

長谷川准教授は、学科特別演習I、II(ゼミ)の授業でキャンパス内に見られる植物を観察し描く授業を行っています。毎年4月後半から5月の中旬にかけて、ゼミ生たちは、キャンパスに咲く心惹かれる花を見つけ、自分の感じる美しさを120色の色鉛筆を使い描きます。花をじっくりと観察し、集中して描かれた作品は、個性的で実物の花に負けない

ぐらい心に響く美しさです。この授業では、絵を描くことを通して、集中力や観察力も養い、美に対する感性を高めることを目標としています。そして、一人ひとりの子どもを大切にする心を育み、子どもの造形表現活動の支援を行う方法を身につけていきます。

今回描いたキャンパス内の花の作品は、コラージュなどの技法を用いてさらなる展開を経ていきます。最初に描いた花のイメージを自分らしく広げて、個性あふれるみずみずしい感性を存分に発揮した作品となるでしょう。これらの作品は、平成27年の1月に開かれるBLOOM展(注)に出展する予定です。ぜひご覧ください。

(注)神戸女子短期大学の全学科の作品展



好きな花を見つけスケッチする学生



数多くの色を重ねて描く



長谷川美和准教授(後列左)とゼミ生

英語演劇鑑賞の夕べ

ウィリアム・シェイクスピア作「ロミオとジュリエット」公演

平成26年5月20日(火)神戸女子大学須磨キャンパス「体育文化ホール」において国際シアターカンパニー・ロンドン(International Theatre Company London 以下ITCL)による

ウィリアム・シェイクスピア作「ロミオとジュリエット」が上演されました。人気の演目でもあり会場は、約900名の観客をお迎えし満員となりました。

ITCLの公演は、地域連携活動の一環として毎年開催し、今回で9回目の公演です。

運命の罠にはまっていくロミオとジュリエットの悲劇を少人数の出演者がひとりで複数の役を演じ、卓越した演技に歌や踊りもまじえた舞台は、観客を終始魅了しました。

文学部英語英米文学科の学生が中心になり、協力して看板作成、受付、アナウンスといった運営をしています。この行事に参加したことで、シェイクスピアの作品への興味や理解が深まり、短時間ではありますがITCLの俳優とスタッフとの交流も行われ、学生が生きた英語を学ぶ場にもなっています。



受付の様子

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業「教員養成高度化システムモデルの構築・発信」 遠隔講義システムで単位互換科目の授業が開始される

連携大学

兵庫教育大学
神戸親和女子大学

兵庫県立大学
武庫川女子大学

神戸学院大学
神戸女子大学

大学院に教職課程をもつ上記の大学が連携し、それぞれの実績、特色、資源を生かして相互補完と協働することで、より高度な教員養成システムを実現することを目標に、この事業は、平成24年度に取り組みが開始されました。

平成26年度前期から神戸女子大学大学院では単位互換科目として以下の科目が、兵庫教育大学の学生に遠隔講義システムで提供されています。

- 文学研究科 教育学専攻 前田 研史教授
科目名「臨床心理学特論Ia」
- 家政学研究科 生活造形学専攻 田中 陽子教授
科目名「家政教育学特論」



田中陽子教授の授業



前田研史教授の授業

「エコ+」企画展に出展「知っとこ！地球温暖化!!」

平成26年3月6日(木)から16日(日)の期間、神戸市西区見津が丘の「こうべ環境未来館」において開催された企業・大学・NPOなどによる「エコ+」企画展に、神戸女子大学家政学部 家政学科の来海 素存准教授のゼミ生が、都市部の環境保全対策の事例、地球温暖化に対応する緑化やエネルギー対策について、パネルや住宅模型を作成し出展しました。

来海研究室は住生活、建築、インテリアデザインに加え、地球温暖化による環境問題に対処する都市計画や住宅設計についても研究しています。

出展の決定後は、ゼミ生が協力して短期間(3ヶ月)で、展示の構想から内容の決定、展示パネルや住宅模型の作成を行いました。

地球温暖化の現状と国の対策、環境保全対策の事例紹介と提案、今後の環境対策の展開について紹介しました。人目を引いたのは、環境に配慮した理想の住宅模型です。ル・コルビュジエ(注)が設計したパリ郊外の別荘の図面や



「エコ+」企画展で展示されたパネルと住宅模型

写真を基に、壁面緑化、屋上緑化、太陽光パネルでエネルギー対策を考えたうえで、快適な生活空間になるように改造案を取り入れ作成しました。

学生たちは、「環境に配慮した建造物の知識が深まり、都市や住宅の緑化の方法も多種多様であった。外出時にも、どんな緑化が行われているか注意して見るようになった」「将来住宅を建てる時は、今回の活動で得た知識を生かし環境にやさしい設計にしたい」といった感想をもち、環境を考える研究を続けたいという学生もいました。

(注)ル・コルビュジエ(Le Corbusier):1887-1965年スイス生まれ、フランスで主に活躍した建築家、モダニズム建築の提唱者で東京上野の国立西洋美術館の設計者としても有名。



来海素存准教授と作成した作品とゼミ生



神戸女子大学

神戸市立須磨離宮公園

学生寮学生運営委員会 第33回こうべユース賞受賞

平成26年2月22日(土)神戸市須磨区の須磨パティオ健康館パティオホールにおいて第33回こうべユース賞(注)の表彰式が行われ、神戸女子大学の学生寮学生運営委員会が社会部門で表彰されました。

平成16年から行幸寮と天神寮の寮生は、地域自治会の清掃活動に参加してボランティア活動を開始しました。その後、平成18年度に「学生寮 かなめ自治会」が発足し、平成22年度からは「学生寮学生運営委員会」に改名。継続的に須磨区内で諸団体とともに環境保全活動や地域清掃活動に参加していることが評価されました。

平成25年2月に実施された「須磨FRSネット 自然環境サミット2013」に事例発表を行うなど、青少年が地域活動を通じて得た経験や思いを積極的に情報発信しています。



(注)こうべユース賞:神戸市青少年育成協議会と神戸市が文化・スポーツ・社会の各分野で活躍し、業績顕著及び奨励に値する活動を行った青少年を表彰するもの

学 園 からのお知らせ

○平成26年春の叙勲受章者

4月29日(火)に平成26年春の叙勲の受章者が発表され、行吉学園関係者では次の2名の方が受章されました。

瑞宝中綬章 福井 康之 神戸女子大学名誉教授
瑞宝中綬章 神田 精一 神戸女子短期大学名誉教授

○兵庫県功労者表彰について

平成26年兵庫県功労者表彰の受賞者が発表され、神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科 梶原 苗美教授が、「教育功労」の部門で表彰を受けました。



受賞祝いを行吉誠之理事長から贈られた梶原苗美教授(左)

○名誉教授称号授与式

平成26年6月11日(火)に神戸ポートピアホテル本館「菊水の間」において神戸女子大学の名誉教授の称号授与式が挙行されました。

本年度の名誉教授の称号が、文学部 安田 孝先生、家政学部 上田 充夫先生に授与されました。

式典では、神戸女子大学の中島 實学長から称号記が授与され記念写真撮影後は、和やかに懇談が行われました。



名誉教授称号授与式において記念撮影

安田 孝先生の教育・研究業績

日本近代文学(谷崎潤一郎、森鷗外、幸田露伴)が専門。様々なテキストを結びつけるテキスト連関から作家を相対化してとらえる研究において優れた業績をあげる。東京都立大学人文学部教授を経て、平成17年から神戸女子大学文学部教授。平成18年から大学院文学研究科日本文学専攻主任(平成20年3月まで)。平成20年から2年間、平成24年から1年間日本語日本文学科主任。

上田 充夫先生の教育・研究業績

繊維、染色、繊維加工、界面化学、色彩工学が専門。繊維の染色、加工に関する研究の第一人者。環境低負荷型の染色技術の確立の研究で優れた業績をあげる。テキサス大学アーリントン校在外研究員、大阪市立工業研究所有機化学課研究主任、京都工芸繊維大学の教授を経て、平成16年から神戸女子大学家政学部教授。平成18年から大学院家政学研究科生活造形学専攻主任(平成22年3月まで)。

○社会事業史学会 学会賞受賞について

神戸女子大学健康福祉学部 社会福祉学科の小笠原 慶彰教授が平成26年5月に第32回社会事業史文献賞を受賞しました。文献名「林市蔵の研究-方面委員制度との関わりを中心として」関西学院大学出版会 2013年2月刊

○看護学部設置のお知らせ(設置認可申請中)

設置時期 : 平成27年4月

設置場所 : 神戸女子大学ポートアイランドキャンパス 神戸市中央区港島中町4丁目7番2号

学部学科 : 看護学部看護学科

学 位 : 学士(看護学)

入学定員 : 80名(収容定員:320名)

必修資格 : 看護師国家試験受験資格

選択資格 : 保健師国家試験受験資格(20名)、助産師国家試験受験資格(8名)、養護教諭一種免許状(80名)

(助産師を選択した場合は、保健師、養護教諭一種免許状は取得できません)

○神戸女子大学コラボ弁当 学生に感謝状が贈られる

神戸女子大学と生活共同組合コープこうべ、大塚食品株式会社との共同企画で開発したお弁当第三弾「春旬 花より団子弁当」が平成26年2月24日(月)から5月中旬まで、コープこうべ各店舗で販売されました。考案した家政学部 管理栄養士養成課程の後藤 昌弘教授のゼミ生に、卒業前の3月14日(金)にコープこうべの関連会社株式会社コープフーズから感謝状が贈られました。



第三弾の弁当を手にするゼミ生と後藤昌弘教授

行事日程

7月

1	火	<ポートアイランドキャンパス>すいか祭り
5	土	学園内編入学試験
8	火	<須磨キャンパス>すいか祭り
19	土	オープンキャンパス
21	月	海の日
23	水	<短大>前期定期試験期間開始
29	火	<大学・短大>前期授業終了

8月

2	土	オープンキャンパス(3日まで)
9	土	<大学・短大>前期定期試験・補講期間終了(健康福祉学部)
12	火	<大学>補講期間終了(文学部・家政学部)
13	水	全学一斉休業(16日まで)
17	日	オープンキャンパス
29	金	<短大>前期定期試験結果・追再試験発表

9月

2	火	<短大>前期追再試験(5日まで)
4	木	<大学>前期科目最終成績発表
13	土	オープンキャンパス
15	月	敬老の日
22	月	<大学・短大>後期授業開始
23	火	秋分の日

10月

11	土	AO入試(二次)、<大学>一般編入学試験
13	月	体育の日 祝日授業日

11月

1	土	指定校特別推薦入試、社会人特別入試 <短大>公募制推薦入試(小論文方式)
2	日	公募制推薦入試AB、神女ファミリー入試、公募制自己推薦入試
3	月	文化の日
11	火	創立記念日 休日授業日
14	金	学園祭準備(休講)
15	土	学園祭(16日まで)
22	土	<大学>オープンキャンパス(須磨キャンパスで開催)
23	日	勤労感謝の日
24	月	振替休日

12月

7	日	公募制推薦入試後期
22	月	<大学・短大>年内授業最終日
23	火	天皇誕生日
29	月	全学一斉休業(1月3日まで)

1月

1	木	元旦
5	月	<大学・短大>後期授業再開
12	月	成人の日
17	土	阪神・淡路大震災 鎮魂の日、大学入試センター試験(18日まで)
20	火	<大学>学生会総会(休講)
21	水	一般入試前期A
22	木	一般入試前期B
27	火	<大学・短大>後期授業終了
28	水	<短大>後期定期試験期間開始
31	土	<短大>ブルーム展(2月5日まで)

表紙写真

ビエール・ドゥ・ロンサール Pierre de Ronsard

「ビエール・ドゥ・ロンサール」

温かみのあるクリーム色にピンク色の緑が入った繊細な色合い、モダンローズでありながらオールドローズのようなクラシカルな雰囲気をもつ、うつむき加減に咲く姿はとてロマンチック。可愛らしい大輪の花をたわわに咲かせ、しかも強健で育てやすいバラ「ビエール・ドゥ・ロンサール」は、日本で大人気の1季咲き・クライミングローズです。フランスの名門育種家メイアン家の2代目フランシス・メイアンの妻マリー・ルイズ・メイアンが1988年に作出し、「詩人の貴公子」と称えられたルネサンス期のフランスの大詩人の名を冠しています。

世界40カ国が加盟する世界バラ会連合は、3年に1度開く世界バラ会議で、世界中で愛されている名花「榮譽殿堂のバラ」を1品種選んでいます。日本では、2006年に大阪で第14回大会が開催され、珍しく2品種が選ばれました。その栄えある一つが「ビエール・ドゥ・ロンサール」です。日本とゆかりの深いこのバラは、須磨離宮公園の「王侯貴族のバラ園」と「殿堂のバラコーナー」にあります。三重のアーチから溢れんばかりに咲き誇るバラのトンネルは、今年の春、お客様に大人気の写真スポットとしてにぎわいました。

神戸市立須磨離宮公園 園長 山村 治



編集後記

神女広報CROSSROADSの夏号は、毎年梅雨明け前後に発行します。暑い夏は、敬遠したくなりますが、輝く太陽の下でひまわりが咲き、海辺がにぎわい、花火が夜空を彩る楽しい季節でもあります。読者の皆様には、夏を元気に過ごしていただくと願っております。

今回の特集は、図書館に誕生したライブラリー・commonsです。図書館は、本が整然と並ぶ中で静かに読書をする人の姿を思い起こします。読書といえば、この春から始まった朝の連続ドラマのヒロインは本が大好きで、夢中で本を読みふける姿を見た両親が東京のミッション系の女子校に入学させることからストーリーが展開しました。好きなことや興味のあることを調べるのに時間を忘れてしまった経験はどなたにもあると思います。

興味や関心のあることを探求するためにライブラリー・commonsで勉強する学生の皆さんの中には、共通のものを追い求めるうちに、学年、学部、学科に関係なく新しい人がみつかる人もでてくるのではないのでしょうか。ライブラリー・commonsでは、友情の輪も広がっていくことでしょう。

毎回広報誌は、多くの皆様にご協力をお願いして完成しております。関係者の皆様にご感謝し、御礼を申し上げます。(M.O.)

神女広報 CROSSROADS vol.18 2014年7月発行

編集・発行 学校法人行吉学園 学園企画部 学園広報課
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL:078-303-4790 FAX:078-303-4889
ホームページアドレス <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>
E-メールアドレス gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp
印刷 交友印刷株式会社

※「神女広報」へのご意見、お問い合わせなどお寄せください。



学校法人行吉学園



神戸女子大学



神戸女子大学大学院



神戸女子短期大学



神戸女子大学教育センター

vol.18
2014 Summer

『自立心・対話力・創造性』活力あるコミュニケーションで結ぶ

神女広報

CROSSROADS